



「ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2011」結果報告書

- 期 日 平成23年8月26(金)・27日(土)・28日(日)
- 場 所 愛知県 碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター
- 主 催 日本ソーラー・人力ボート協会
- 共 催 財団法人 マリンスポーツ財団
社団法人 日本モーターボート選手会
- 後 援 国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省
碧南市、碧南市教育委員会、
- 協 賛 古河電池(株)、ローランドディー.ジー.(株)
- 参加数 15隻(ソーラー:4隻、人力:11隻、)
- 観客数 約 450名 (土日の2日間)

結果概要

はじめに今大会が無事に完了したことに付き、大会のために施設全般をお貸しくださった共催のマリンスポーツ財団、日本モーターボート選手会の皆様と、大会の運営作業を手伝っていただいたマリスクラブのボランティアの皆様、更にご後援いただいた国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省、碧南市、碧南市教育委員会、協賛の古河電池(株)、ローランドディー.ジー.(株)の関係者の皆様に主催者としての感謝とお礼を述べさせていただきます。

本年3月11日の東日本大震災の発生に伴い、いち早く大会の自粛を発表する団体もあるため、本協会も、一時は、開催の自粛を考えましたが、3月下旬に日本モーターボート選手会より、「開催日が8月末に変更可能となりましたが、どうしますか?」との報告を受けました。9月の開催は学生チーム、特に高校からの参加が時期的に厳しいことから、協会とし

て8月末の開催日の変更をお願いしておりましたので、8月最終の土、日曜日に開催を決定した次第です。この電話で、大会自粛の話は、自然に沙汰闇になりました。

本年度の大会は、愛知県碧南市での3年目の開催となりましたが、昨年さわやかな秋風の下での開催から、時折雷鳴が聞こえる、残暑の下での開催となりましたが、勤労青少年水上スポーツセンターの皆様と参加チームの連携協力により、概ねスムーズな大会運営が出来ました。

8月末の週末に開催日が決定してから、実行委員会として、最小限の人的資源を最大限に活用して準備を進めてまいりましたが、残念なことに、学生チームの参加は、今年も鳥羽商船高等専門学校1校のみでありました。その理由として、部活として活動するには、遅くとも1~2月には、新年度のカリキュラムを作成する必要があるため、本年は、出場を見送るが、来年には、参加を検討したいとの回答を頂きました。

参加隻数は東日本大震災と、長引く経済低迷の相乗効果で、かなり大幅な減少が見込まれましたが、最終段階で、京都の岡田チーム、鎌倉の金井チームからの参加が決定して、最終的には、人力、ソーラー両部門合わせて、15艇（昨年比1艇減）となりました。

3年間連続で、遠路はるばる参加して頂いた韓国チームが今年は、ウオン高、原発などの関係より、残念ながら、参加が見送りとなりました。また当協会のホームページに参加チームの紹介写真をスライドショー形式で掲載していますのでそちらも併せてご覧ください。

本年は、愛知県の大村秀章知事が表彰式、閉会式に出席され、参加者との交流を深めていただけたこと、開催地碧南市の禰宜田市長が昨年に引き続き開会式、ウエルカムパーティーに出席していただき、来年以降のご後援に付いても前向きなお言葉を頂きました。

レース結果

(1) ソーラーA部門(水中翼艇)

さて今年のレース内容ですが、昨年から新規チームとして参戦した新鋭 BLUE MARINERS は、ドライブユニットとプロペラをカーボンファイバー製に衣替えして、都田チャレンジに挑みましたが、結果は老練な都田チャレンジが200mと1時間耐久の2種目を制し、若いBLUE MARINERS は1周スラロームで勝って、一矢を報いましたが、200mのスタートタイミング、周回レースのマークターンの技量などに、都田チームの一日の長が見受けられました。1時間耐久では、常連のJRCソーラーチャレンジが2位に入り、長年の技術の蓄積によるバッテリーコントロールのうまさが見て取れていました。

(2) ソーラーB部門(排水型艇)

ソーラーB部門(排水型艇)は、昨年と同じく、吉田山コケタース1艇のみの参加となりましたが、記録的には200m決勝レースで24.42秒で総合2位の記録を出し、水中翼艇の都田チャレンジに2.17秒に肉薄する記録を出すなど、年々性能向上が見られるのは、素晴らしいことです。

(3) 人力A部門(水中翼艇)

人力ボート部門も昨年の参加艇数を1隻下回る11艇と過去最低の参加艇数となりました。このため、人力A部門(水中翼艇)がCOGITOチーム1艇のみの淋しい結果となってしまいました。レース結果は、200m、1周スラローム、30分耐久、の3種目で、全て3位の成績でした。競争相手が居ないからなのでしょうか、エンジンの耐久性に問題があるのでしょうか？

(4) 人力B部門(排水量型艇)

人力B部門(排水量型艇)はここ数年チームMEW、ビレッジトップ、ひょうたん島の3艇の3つ巴の戦いが毎年注目を集めていますが、今年もこの3チームは、昨年に引き続き2日間の4レース全てに出場し、最後の1時間耐久レースはひょうたん島チームが船体トラブルの為、早期に戦列を離れてしまいました。各レースとも、デットヒートを繰り返しました。

クラス別結果は昨年4レース中3レースに優勝して還暦パワーを発揮したチームMEWが今年も昨年同様の成績を残すことが出来るか期待がかけられていましたが、200mのレース結果は MEW ビレッジトップ ひょうたん島 1週耐久レース ひょうたん島 ビレッジトップ MEW 30分耐久 MEW ひょうたん島 ビレッジトップとなり、今年も3チームが仲良く勝利を分け合ったレース結果になりました。

上記3チーム以外では常連のFRPが固まらんチームは昨年に引き続き2艇の参加があり、鎌倉の金井チームも、木目の美しい木製カヌーを2艇参加していただきました。

本年より3年ぶりに複数艇参加の場合大幅な参加費用の低減処置を採用しましたが、今後ともこの制度を継続して、参加艇の確保を図ってまいります。

まとめ

今年の大会は天候にも恵まれ、事故もなく楽しく真剣なレースを展開し無事完了することができました。東日本大震災、経済状況その他の要因で参加チーム数が減った一方、地元碧南市からは今後に向けての積極的なご協力が得られる可能性も見えて来ました。

こうした中で当協会としても来年以降の活動を更に活性化するために、大会の運営、プログラム、参加者募集のあり方等について真剣に見直しを進めたいと考えています。

中でも参加者募集については、最近減少傾向の学生チームに人力ボート、ソーラーボートへの関心を持ってもらい、気軽に参加してもらえる基盤づくりを早急に整える必要があります。また折角定着し始めた日韓交流を絶やさないために日本から韓国の大会への参加チームを定期的に確保出来るような情報提供支援を協会として考える必要もあります。

成績（全クラス通算結果）は下記のとおり。クラス毎の成績は協会ホームページ、2011 大会記録報告に掲載しておりますので、参照ください。

ショートレース（200m） 参加15艇

	クラス	チーム名	タイム
1着	ソーボードA	都田チャレンジ	22秒25
2着	ソーボードB	吉田山コケターズ	24秒42
3着	人力ボードA	チーム コギト	30秒44

1周スラロームレース（1周 約1,000m） 参加13艇

	クラス	チーム名	タイム
1着	ソーボードA	BLUE MARINERS	2分51秒18
2着	ソーボードA	都田チャレンジ	2分56秒67
3着	人力ボードA	チーム コギト	3分22秒67

30分耐久レース（1周 約1,000m） 参加10艇

	クラス	チーム名	周回数
1着	人力ボードB	TEAM MEW	7周
2着	人力ボードB	ひょうたん島	7周
3着	人力ボードB	チーム コギト	7周

1時間耐久レース（1周 約1,000m） 参加13艇

	クラス	チーム名	周回数
1着	ソーボードA	都田チャレンジ	16周
2着	ソーボードA	JRC ソーラーチャレンジの会	14周
3着	人力ボードB	チーム ビレッジトップ	14周

大会風景写真

周回レース前の選手説明会の様子



レース前の最終調整、これからレース水面に入る



レーススタートの様子



水中翼艇



人力を推進エネルギーとした翼艇



ソーラーを推進エネルギーとした艇



女性の参加も



フィニッシュ風景 65 番艇 ゴール

レース初日に行われたウエルカムパーティー



表彰式



参加チームの集合写真

